

## ◆ 有識者ダイアログ

(株)ロッテでは、2018年より外部有識者の方をお招きし、ダイアログを実施しています。ダイアログでは、サステナビリティへの取り組みについて忌憚のないご意見や今後に向けたアドバイスをいただき、活動に反映しています。2022年は2021年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大を防止するためオンラインにて実施しました。

### 食の安全への思いをもっとアピールしてください

食の安全・安心は、事業の中で最も大事なところ。より厳しい基準のLOTTE ADVANCEは、お金だけでなく時間や従業員のエネルギーが投入されています。特に製造や調達の現場に携わる方は日々、安全な食品を提供するために努力されていますので、その熱い思いをもっとアピールしてください。

キシリトールや「噛むこと」を生活に取り入れようという活動が評価され、消費者志向経営を受賞されました。食と健康は事業の中心ですので、5つのマテリアリティに濃淡をつけてもよいと思います。「噛むこと」やキシリトールは、会社を横串として貫く共通価値であり、強みですので、ぜひ強調されるべきです。高齢化は先進国だけでなく、途上国でも課題になりますので市場にも高い訴求力があります。

食品ロス削減は喫緊の課題ですが、より価値の高いリサイクル方法を求める姿勢をぜひ発信してください。リサイクルした飼料を食べる牛のミルクがお菓子に使われるなどのストーリーがあるといいですね。世界では、サプライチェーンに関わる全ての人と家族が生活できる賃金を支払うことが調達のテーマになっています。ロッテさんは、フェアカカオや認証油の購入など持続可能な調達を進められていますので、今後の展開を楽しみにしています。そういう意味でDari Kのノウハウを学ばれるのはすばらしい経営判断だと思います。

### 社会の変化に合わせ、常に取り組みをアップデートしてください

70年史やレポートを拝見し、ロッテが量から質へというステージにきているように感じています。ライフサイクルの短い新商品を数多く出すより主力商品に注力して育てていくのは良い考え方です。

グローバルでのサプライチェーン管理のために、Sedexでサプライヤーの人権や環境についての情報を効率的に管理することは、ロッテとサプライヤーの両社にメリットがあり、とても良い取り組みだと思います。

今年4月にプラスチック資源循環促進法が施行されました。それに合わせて、使い捨てプラスチック削減などの数値目標をレポートに盛り込んでいくことも必要です。社会の変化とともに、マテリアリティや取り組みをアップデートすることが、ロッテと社会のサステナビリティにつながっていきます。

食品ロス削減には、商品として流通する期間を適切に伸ばすことが大切です。賞味期限の延長や年月表示化を進めていますが、まだ年月日表示の商品が残っており、さらなる進捗を期待しています。カカオの未利用部分を使って染めたネクタイは、ロッテらしい試みですね。

昨年も申し上げましたが、商品パッケージをもっとお客様とのコミュニケーションに活用できると思います。機能性については上手に表示されていますので、歴史やサステナビリティ取り組みなどの紹介も期待しています。



赤羽真紀子氏

CSRアジア株式会社 日本代表

早稲田大学で政治学と生物学を修める。様々な業種の多国籍企業のCSR担当として通算10年以上の経験を有し、スターバックスコーヒージャパン(株)、(株)セールスフォース・ドットコム、日興アセットマネジメント(株)の各社で関連部署の立ち上げを手がける。2010年より現職



井出留美氏

ジャーナリスト、食品ロス問題専門家  
令和2年度食品ロス削減推進大賞消費者庁長官賞受賞者

奈良女子大学食物学科卒、博士(栄養学/女子栄養大学大学院)、修士(農学/東京大学大学院農学生命科学研究科)。ライオン(株)、JICA海外協力隊を経て日本ケロッグ広報室長等歴任。東日本大震災の際に食料廃棄に憤りを覚え、(株)office 3.11設立。日本初のフードバンクの広報を務め、2016年には食品ロス削減推進法成立のきっかけを作った。著書に『賞味期限のウソ』『食料危機』『あるものでまかなう生活』『捨てないパン屋の挑戦』(第68回青少年読書感想文全国コンクール課題図書)他

## ◆ 有識者ダイアログ

### エシカル消費に関心の高い若い世代に発信を

消費者志向経営優良事例表彰特別賞の受賞おめでとうございます。ロッテの企業理念は消費者志向そのものです。理念が社内で共有され、会社の風土になっていきます。今までやってきたことをさらに進化させていってください。

消費者から、アフリカのカカオ生産地での児童労働についての問い合わせがあると聞きました。人権に対する考え方を社内に浸透させ、今後も取り組みを継続して進めて欲しいと思います。SDGsの達成や持続可能な社会が重要だと消費者が意識するようになり、エシカル消費も少しずつ広まっています。それらに関心の高い若い世代に向けて発信していくことが重要です。

コロナを契機にリモートワークが進み、仕事と生活のバランスをとれることが、従業員の働きがいにつながっているのだと思います。リモートでもコミュニケーションが円滑にとれるようにチャットを活用されている点も良いですね。

食の安全・安心への取り組みを消費者に伝えるには、体験しながら学べる工場見学が有効だと思います。食と健康では、噛むことを意識して実践している人を増やすことを目標にされていますが、そこに楽しさが加わると消費者も受け入れやすくなります。ロッテのサステナビリティの取り組みは素晴らしいので、ぜひ積極的に発信してください。

### 消費者と価値の共有を図ることが、 社会課題解決やSDGs達成につながっていきます

全体としては、とてもいい方向に進んでいると思います。自治体と協力した食と健康の取り組みが評価され「消費者志向経営優良事例表彰」を受賞されましたが、消費者志向経営は未来・次世代のための取り組みを重視しており、SDGs、サステナビリティと親和性があります。コミュニケーションを通して消費者と価値の共有を図ることが、社会課題解決やSDGs達成につながっていきます。こういった評価や会社の姿勢をレポートにしっかりと出していくことが大事です。また、取り組みの事実や結果だけでなく、その背景や苦勞した点などをナラティブに記述することで、ロッテが目指していることを世の中に示すことにもつながります。

ESG中期目標の「食の安全・安心」では、GFSI(Global Food Safety Initiative)にコミットして認証を受けることや、独自の品質保証システムLOTTE ADVANCEのように業界をリードする取り組みが非常に良いと思います。また、気候変動に関するリスク/機会分析を進めていることやSBT(Science Based Targets)にコミットしたことは評価できます。今後は、取り組みを生物多様性やサプライチェーンマネジメントにも広げていくことを期待します。

カカオ豆のサステナビリティに取り組んできたDari Kがグループに参加されたことで広がる新たな可能性にも期待しています。



浦郷由季氏

一般社団法人全国消費者団体連絡会\*事務局長

大学卒業後、7年間の会社勤めの後、専業主婦として子育てをしながら生協の活動に関わる。生活協同組合ユーコープ、日本生活協同組合連合会の理事を経て、2017年5月より現職。厚生労働省、食品安全委員会、消費者庁などの審議会等委員を務める

\*消費者団体の全国的な連絡組織で、くらしに関わる様々なテーマについて、審議会への委員参加やパブリックコメントの提出などを通じて消費者の立場から意見発信をしている



蟹江憲史氏

慶應義塾大学大学院  
政策・メディア研究科 教授

同大学SFC研究所xSDG・ラボ代表。北九州市立大学助教授、東京工業大学大学院 社会理工学研究科准教授を経て、2015年より現職。2023年Global Sustainable Development Report執筆の15人の独立科学者の一人に国連事務総長から選出されている。専門は国際関係論、サステナビリティ学、地球システム・ガバナンス。SDGs研究の第一人者であり、研究と実践の両方を行っている。博士(政策・メディア)

## ◆ 有識者ダイアログ

### 高い目標設定が素晴らしい 商品開発力も活かし市場変革をリードして欲しいです

サステナビリティレポート2021は一般の方でも読みたくなる工夫があり、コミュニケーションを重視されているロッテらしさが表れていました。高い目標を設定され、全社で取り組む姿勢は素晴らしいです。その分、今後の進捗にも注目が集まりますね。RSPO認証、Sedexなど外部のプラットフォームを活用して業界全体のサステナビリティにも貢献しながら取り組んでいる点が評価できます。また、人権デューデリジェンスは国内の業界でも先進的なレベルにあると評価できますが、児童労働、強制労働といった人権課題への対応をさらに進めるには、NGOなど外部視点でのチェックやサプライヤー向け通報窓口の開設もお勧めします。また児童労働の原因でもある農家の低収入や森林破壊などを含め、今後もカカオ生産地の幅広い社会課題の解決への取り組みを期待しています。

5つのマテリアリティは、独自性が分かりにくい点が気になりました。今後見直しされる際には、ロッテの注力ポイントである食と健康やカカオ豆の調達など、是非より具体的なものにしてください。ダイバーシティでは、男性の育休取得率が50%へと飛躍的に向上したことはすばらしいですね。他の取り組みについても今後のスピードアップを楽しみにしています。

ロッテがキシリトールの商品で効果を紹介されたことで消費者の意識や行動が変わりました。商品開発力はロッテの強みです。今後も消費者の意識まで変えてしまうような素敵なエシカルチョコの開発などを期待しています。



潮崎真惟子氏

認定NPO法人フェアトレード・ラベル・ジャパン 事務局長

デロイトトーマツ コンサルティングを経てオウルズコンサルティンググループにてマネジャーを務める。コンサルタントとしては人権デュー・デリジェンス、サステナビリティ戦略、政策立案などを多数担当。「児童労働白書2020 ―ビジネスと児童労働―」執筆。一橋大学経済学部卒、同大学経済学研究科修士(地域開発)。人権・労働分野の国際規格SA8000の監査人コース修了



### ダイアログを受けて

### 社外からのご意見やアドバイスを反映して サステナビリティ活動と情報開示を進化させてまいります

外部有識者の方々とダイアログは、当社に対して客観的なご評価やアドバイスいただける大変貴重な機会です。いただいたご意見をサステナビリティ活動や情報開示に反映しています。例えば、昨年のダイアログでアドバイスいただいたSDGsの169のターゲットへの貢献については、本データブック(P8)でESG中期目標とターゲットの関係を明確にしています。また、使い捨てプラスチックの削減についてもご指摘いただいておりますが、キシリトールブランドを中心に、容器包装のプラスチック使用量削減も進めています。さらに、アドバイスを参考にしてESG中期目標のアップデートを行っており、今年にはカカオ豆の持続可能な調達に関する目標の上方修正を行いました。ちょうど、Dari K(株)がグループ入りしたタイミングと重なったこともあり、このテーマについて当社への大きな期待を感じました。この期待を裏切ることがないように取り組みを推進してまいります。これからも社外からのご意見やアドバイスを反映してサステナビリティ活動と情報開示を進化させてまいりますので、どうぞご期待ください。



佐藤利弘

株式会社ロッテ  
常務執行役員

